

IPPNW 理事会様

2023 年 6 月 1 日 Physicians Against Nuclear War (PANW)

ケニアのモンパサでの 23rd World Congress の成功、おめでとうございます。

私たち日本の核兵器の廃絶を求める医師・医学者の会である PANW も 6 名の代表が参加しました。その内、2 人が若い医学生でした。

PANW は IPPNW 理事会が発表した「The Pacific Ocean must not be a radioactive waste dump」の声明に賛同します。

PANW は、日本政府がトリチウム汚染水の海洋放出を決めた 2021 年 4 月に、「トリチウム汚染水の海洋放出を行わないことを求める」という声明を発表しました。海洋放出を決定する際に、いくつかの選択肢が出されましたが、従前通りにタンクに保管するという選択肢はなく、まさに結論ありきの決定でした。

福島第 1 原発では汚染水が 1000 基余りのタンクに 125 万トンがたまっていて、現在も 1 日 140 トンのペースで増え続けています。タンク内のトリチウムの総量は 780 兆ベクレルあり、建屋内にあるものも含めると、2000 兆ベクレルにのぼると推定されています。汚染水を減らすことが一番重要なのに関わらず、増え続ける汚染水対策については、国も東電も現状以上は何も方針を示していません。国と東京電力は、しばらく年間 22 兆ベクレルを下回る水準で海に流すとし、状況を見ながら徐々に増やすことを検討していますが、少なくとも数十年かかる見通しです。

福島第 1 原発の周囲にはタンクを保管するスペースが十分あります。PANW は、海洋投棄をやめ、汚染水を減らす対策をさらに強化して、当面はタンクにトリチウム汚染水を保管すべきであると要求しています。

PANW は引き続き、トリチウム汚染水の海洋放出をやめさせるよう運動していきます。